

二胡之友

3,4

2015

第36号
840円

巻頭特集

これだけは知っておきたい二胡名家・名曲
『二胡之友』編集部が選んだベスト5

カラー頁

二胡大師の名言

グラフィック・アイ「春節を寿ぐ中国獅子舞」

お宝☆我楽多コレクション

観劇レポート

コンサートレポート

二胡演奏の科学

揚琴への招待

胡銀岳の「北京便り」

「礼華の上海便り」〜レッスンメモ〜

二胡之友オリジナルガイド付楽譜

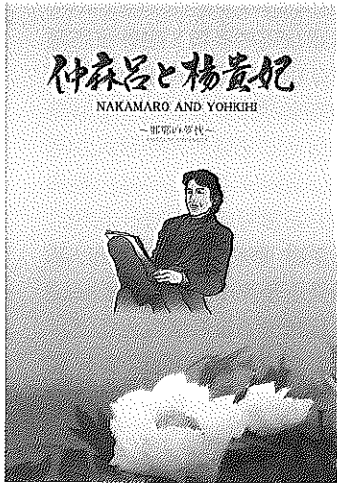
フリースタイル・アナリーゼ

二胡人

東南西北二胡見聞録

観劇 Report

仲麻呂と楊貴妃 ～邯鄲の夢枕～



瞳みのる(吉備真備)



石山雄太(李白・安禄山)



チャンチンホイ(道士・王維・鑑真)



伊藤治菜(楊貴妃・琳娘)



蓉崇(漁師・阿倍仲麻呂)



江頭一晃(茶屋の主・孟浩然・高力士)



高橋亜矢(劉翠・侍女)



紗織(張翥)

仲麻呂と楊貴妃～邯鄲の夢枕～

東京

2015年1月28日(水)～2月1日(日)

俳優座劇場

大阪

2015年2月5日(木) ドーンセンター

名古屋

2015年2月7日(土) 西文化小劇場

【出演】

瞳みのる、石山雄太、
チャンチンホイ、伊藤治菜、
蓉崇、江頭一晃、高橋亜矢、紗織、
風間杜夫(声の出演)

【主催】

株式会社オフィス二十二世紀

【作】人見豊 【演出】友永コリエ

2015年1月28日より2月7日まで、東京、大阪、名古屋において、瞳みのるプロデュースによる演劇「仲麻呂と楊貴妃」の公演全8回が行われた。瞳は、一斉を風靡したグループサウンズ、ザ・タイガースでピーと呼ば

れていた人物で、グループ解散後、慶応大学及び大学院に学び、北京大学に留学、慶応高校で漢文・中国語の教師となった。2011年、芸能界に復帰してからは、中国文学や近代音楽に独自の視点をもって、音楽、詩作、執筆、公演に力を注ぎ、日中の架け橋として活動している。

今回の「仲麻呂と楊貴妃」の脚本は、瞳の手に成る。彼は吉備真備役で出演。自分の北京留学時に月を見て感じた気持ちを、阿倍仲麻呂の和歌「天の原 ふりさけ見れば 春日なる 三笠の山に 出でし月かも」に表される望郷の思いに重ねてテーマにしたように思われる。

記者は1月29日に見たのだが、客席は満席、開演前と終演後のロビーにも人が溢れ、もちろん他の役者さんたちのファンも多かったが、瞳の根強い人気を感じられた。

出演者の中には、外国人で初めて中国

の京劇団に入団した石山雄太、長く京劇を学び、今は本誌31号のグラフィックアイに登場していただいた布袋劇のチャンチンホイ、20年近く北京で昆劇の勉強をした伊藤治菜といった、中国の伝統劇に文けた人材も。

さて劇は、中国唐の時代、玄宗皇帝の世、日本から遣唐使として留学し、高官になって中国で客死した阿倍仲麻呂を主人公に、ほとんど史実に基づき、それにフィクションを加えて作られた物語である。そして、虚構ではあるが、同時代に生きた彼と楊貴妃との恋をメインテーマに、仲麻呂と親交のあった詩人の李白、王維、孟浩然も登場し、彼らの代表的な詩がストーリーに沿って効果的に詠まれる。詩は、役者が詠み上げることもあったが、主には中国語や日本語が字幕で示され、陰で朗読する方式だったので、分かりやすかった。それにそ

の詩の理解を助ける台詞も雑えられた。たくさんの漢詩が出て来るが、目で見るほうが分かりやすいので、親切な方法だったと思う。

ストーリーは、まず博多の漁村、炊飯の大きな釜の傍で、ある若者が道士(道教の修行をする人)に枕を借り、夢を見るところから始まる。若者が目覚めると仲麻呂となって唐土にいる。そして共に唐へ渡った吉備真備の計らいで、前述の日本でも有名な詩人達と知り合い、そして妓楼で後の楊貴妃、楊玉環と恋に落ちる。楊貴妃の唱や所作は、昆劇の表現形式が用いられた。

楊玉環は玄宗皇帝の息子寿王の妃となり、2人は別れる。後に玉環は、その美しさに魅せられた玄宗皇帝に正式に迎えられ、貴妃の位に就く。それからは、楊貴妃の親類縁者が出世をし、横暴な政治を行うも、明君と言われた玄宗は政治から離れてしまい、民衆の不満が高まってゆく。そして安祿山の乱により、楊貴妃は乱の元凶として処

刑される。

この場面では、安祿山の立ち回りが披露された。玄宗皇帝は姿を現すことなく、風間杜夫の声が聞こえるのみであったが、玄宗の威厳、聡明さがよく表れていたと思う。

時が過ぎ、仲麻呂と楊貴妃との間に生まれた娘琳瑯との対面、そして、仲麻呂は娘に最期を看取られて死ぬ。

最後の場面は一転して、博多の漁村。眠りから覚めた若者は、今までの出来事は傍にある大きな釜の飯が炊けるまでの短い間に見た夢だったことを悟るのである。

この釜の登場、枕を借りて夢を見るというモチーフが、サブタイトルの「邯鄲の夢枕」なのである。昔、ある青年が邯鄲(今の河北省邯鄲市辺り)の旅館で道士から枕を借りてうたた寝をしたところ、栄華を極めた一生のことを夢に見たが、目が覚めてみると、それは宿の主人が黄梁の飯を炊いている短い時間であった、という故事から、人生の富貴栄華の儚さをたとえる。「一炊の夢」ともいう。

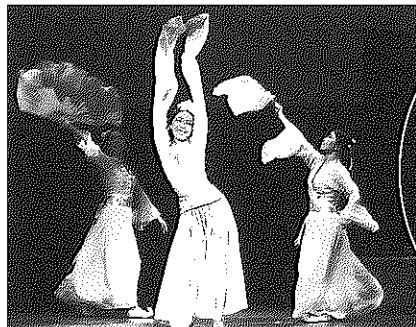
因に、劇の最後に仲麻呂の詳細な経歴が映しされたが、秀才であった仲麻呂は、19歳で遣唐留学生として唐に渡り、唐の太学で学んで科擧(官吏登用試験)に合格、玄宗皇帝に仕え、最後は皇帝の顧問である官にまで登った。一度帰国する船に乗ったが難破し、ついに帰国は果たせず、73歳で長安にて死す。

ストーリーの間に、ユーモラスな十二支しりとりが行われたり、全編を通じて、昆劇の舞踊と唱そして台詞回し、中国舞踊、京劇の武術、カンフー、日本の歌、中国伝統劇で用いられる布をはためかせて台風を表すなどの方法、果てはチャールストンまで、といった、演劇に関する中国の伝統的な手法と現代日本演劇の手法があちこちに散りばめられており、楽しんでいるうちに1時間半の劇が幕を閉じた。

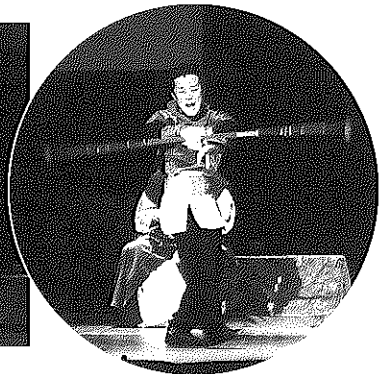
全体を通じて、瞳の秀逸な訳詩、中国文化に関する造詣の深さが随所に感じ取れ、しかも楽しさ溢れる劇であった。



左から孟浩然、仲麻呂、李白、吉備真備



妓女の舞



仲麻呂と琳瑯



安祿山



左遷先揚州で高僧鑑真に教えを乞う仲麻呂

十二支しりとりで「サル」の得意芸、孫悟空の棒術を披露する李白



十二支しりとりの場面。それぞれの特性を表す芸を見せる。



通し稽古

